

アフリカ地域 稲作収穫後処理 Post-Harvest Rice Processing for African Countries		更新
対象国の条件 : 米収穫前後処理技術改善、流通前品質維持・生産ロス改善が必要な国		
研修コース番号 : 201984706-J002		
案件番号 : 201984706		
主分野課題 : 農業開発/稲作・その他穀物、根茎作物		
副分野課題 :		
使用言語 : 英語		
案件概要		
コメ増産を最終目標としているが、そのための、適切な収穫時期選択、また、収穫後、流通前に品質劣化や生産ロスを防ぐことなどに焦点を当て、農業指導に従事する農業関連行政官などを対象に、稲作収穫後処理技術の改善に関して技術研修を行うもの。山形大学が、地方自治体、企業、JAなどと協力して実施する。		
目標/成果		対象組織/人材
【案件目標】 農業指導に従事する農業関連行政官等（例：農業技官）が、稲の収穫適期判定、収穫後処理技術、それらの普及に必要な実践的知識、技術の習得を目標とする。		【対象組織】 農業指導を所掌する省庁、政府機関、農業機関等 【対象人材】 1. 技術行政官(技官)、主任技術者、首席農業改良普及員 2. 稲作農業指導の実務経験3年以上の40歳未満の者 3. 公務員以外に、農民への技術指導が期待できる篤農家、農民組織代表者や中堅リーダー、精米業者団体の代表者等 4. 心身ともに健康で軍籍に属さない者
【成果】 1. 自国の稲作の現状と課題、特に稲作収穫後処理技術に関するそれらを抽出し説明できる。 2. 日本、山形県、庄内地方のコメ生産、流通、育種の現状、農協の役割を説明できる。 3. 稲の最適収穫時期、収穫後処理理論と技術、検査、品質管理に関する技術を説明できる。 4. 稲作収穫後処理技術を、パイロット地域のモデル農家等に普及するための計画案が作成される。		
内 容		
【来日前】 自国のコメ生産、稲作収穫後処理に関する現状と課題をレポートのまとめる。 【本邦研修中】 1. 上記レポートの発表と発表内容に関する討議 2. (1) 庄内地方の農業概説(地域的气候的特徴、庄内ブランドの取組みを含む) (2) JA鶴岡の概説 (3) 稲栽培上の問題点と解決策の講義 (4) 日本の稲作の機械化に関する講義 3. (1) 水分と品質測定、適期収穫の講義、実習 (2) 米の乾燥、調製、貯蔵に関する講義 (3) コメ検査現場の視察 4. 市場ニーズに合致した精米技術に関する講義 5. アクションプランの作成、発表、討議 【帰国後】 所属先でアクションプランの検討と改善		本邦研修期間 2019/8/12～2019/9/29
		担当課題部 農村開発部
		所管国内機関 JICA東北
		関係省庁
		実施年度 2019～2021
主要協力機関	調整中	
特記事項及びホームページ	http://www.tr.yamagata-u.ac.jp/e.html	